

『(仮称)金ヶ崎夜間学校』ニュース

第一回には、18名が集まる!

病氣と医療相談と

なご(や)か(な)し(と)り(き)り(文)

五月二十九日(木)の夜七時から、「喜望の家」の娯楽室(喫茶室)に、労作者とボランティアをあわせて総数十八名が集まり、第一回の「(仮称)金ヶ崎夜間学校」が開かれた。朝のセミナーでこのビラを見た人や、人づてに聞いて来た人もいたが、お茶を飲みながらにぎやかに始った。

当日は、「金ヶ崎の病氣について」がテーマということで、結核のケースワーカー入佐明美さんに、活動を通して中から感じていっていることを話してもらった。しかし、病氣は金の労作者みんなの問題でもあり、集まった人も、現在自分がかかえている病氣をなおす方法をたずねたり、入院経験、病氣療養中の問題についてそれぞれが意見を述べあった。結核でありながら入院できない人や、慢性いっしんで苦しんでい

る人、労災の人もいて、全員でまよった話にはならず、個人と個人というようにグループごとに話がもりあがり、それでも、みんながほんのひとときでも誰かと話さし、中には傷病手当金のもらい方を具体的に聞いていく人もいて、有意義な集まりだった。

この「夜間学校」は集まった労作者自身が運営していくもので、今回のテーマは何がいいかと話し合ったところ、仕事中にケガをした場合の労災保険の具体的な手続きの仕方や、健康保険の内容について、特に傷病手当金のもらい方について話したいとの意見が出ました。しかし、もっと広く運営していく人を多くつくる意味でも、次回も引き続き「病氣」を、それも「入院」に焦点をあわせて、第二回目を開くことにしました。

「喜望の家」娯楽室(喫茶室)の紹介

- ・毎日午前8時半より午後4時まで(日曜を除く)
- ・労作者のたまり場、テレビが、囲碁もです!
- ・何と数千冊の本が揃います。読めます、借ります!

「喜望の家」娯楽室は、喫茶室であって、喫茶店ではありません。ヒマつぶしに本を読み、テレビを見、囲碁をし、話をしに来てください。

カウンターの中にいちゃんは、和田くんといひます。よろしく!

このように、この「夜間学校」は労作者の集まりの場としてあり、労作者自身が運営し、労作者の学びたいと思うものをみんなが学んでいく学校であることを集まった人たちが確認し合いました。九時すぎに別れた。ドヤにいても暑く、おもしろくないから、(一)に来ていろいろ話したのは楽しかったとの声があり、次回に会うことを約束し合って、第一回の「夜間学校」は終わりました。